

第33回北海道法人会青年の集い小樽大会経過報告

開催日 令和7年8月29日(金)
開催場所 小樽市民センター（式典・記念講演会）
グランドパーク小樽（懇談会）
参加人数 来賓招待者35名 参加人数315名

第33回北海道法人会青年の集いは全道30法人会青年部会より315名（道外2名含む）、来賓招待者35名が出席し開催された。第1部大会式典は、加藤青連協会長より「法人会青年部会は租税教育、健康経営、会員増強と3本の柱を軸に活動を展開している。租税教育活動においては全単位会の実施が目標として強化されている。各部会で最低1校の租税教室を開催していただきたい。また、健康経営は、企業の活力向上による税収の増加と医療費の適正化による社会保障給



道法連青連協 加藤会長 式辞

付費の削減の財政健全化をキーワードとした活動内容となっている。後ほど事例発表いただく室蘭地方法人会の健康経営の取り組みを単位会に持ち帰り、それぞれの活動に活かしていただきたい。会員増強については6月末時点での部会員数を基準として1年間で10%の純増を目標としている。親会・女性部会と一緒に頑張って会員増強に取り組んでいただきたい。」と式辞があった。

来賓紹介の後、札幌国税局 田坂課税部次長、北海道後志総合振興局 鶴ヶ崎副局長、迫小樽市長、道法連 佐藤副会長より祝辞をいただいた。

祝電披露を挟み、租税教育活動の参考事例として第38回法人会全国青年の集い福井大会の租税教育活動プレゼンテーション奨励賞を受賞した室蘭地方法人会より租税教育事例発表、健康経営大賞青年部会部門で優秀賞を受賞した、室蘭地方法人会所属 室蘭まちづくり放送(株)より活動内容が披露された。

第2部記念講演会は、(株)小樽ベイシティ開発・小樽市元副市長 山田厚氏と(株)小樽ベイシティ開発代表取締役社長 内藤雄介氏、北海道済生会ソーシャルインクルージョン推進室 清水雅成氏の3氏により、「小樽におけるウェルネスタウン構想の実現について」をテーマに講演をいただいた。

第3部は会場を移し、グランドパーク小樽 メインバンケットホールにてテーブル着席方式の懇談会を開催。アトラクションとしてマグロ解体ショーの他、各単位会代表による海苔巻きの早食い競争により上位2位までの6名による寿司あんルーレットを行い、参加された部会員は終始楽しみながら交流を深めた。

大会式典 14:00～15:20

1. 開会宣言 公益社団法人小樽法人会青年部会

部会長 宮前 渡

2. 国歌斉唱

3. 式 辞 一般社団法人北海道法人会連合会

青年部会連絡協議会 会長 加藤 剛

4. 来賓紹介

5. 来賓祝辞 札幌国税局 課税部次長 田坂 正樹 様

北海道後志総合振興局 副局長 鶴ヶ崎 徹 様

小樽市長 迫 俊哉 様

一般社団法人北海道法人会連合会

副会長 佐藤 慶一 様



国税局 田坂課税部次長 祝辞



迫小樽市長 祝辞

6. 祝電披露

7. 租税教育プレゼンテーション紹介

第38回法人会全国青年の集い福井大会

租税教育活動奨励賞 公益社団法人会室蘭地方法人會青年部会

8. 健康経営大賞報告会

第38回法人会全国青年の集い福井大会

健康経営大賞企業部門 優秀賞

公益社団法人会室蘭地方法人會青年部会所属 室蘭まちづくり放送株式会社



租税教育プレゼンテーション 室蘭地方法人會



健康経営大賞企業部門 室蘭地方法人會青年部会所属
室蘭まちづくり株式会社

9. 次回開催地挨拶 公益社団法人網走地方法人會青年部会 部会長 石山 善輝 様



次回開催地挨拶(令和8年6月12日網走市で開催)

10. 大会宣言 第33回北海道法人會青年の集い小樽大会 大会実行委員長 呉 政儒

11. 閉会宣言 公益社団法人小樽法人會青年部会 副部会長 山本 秀也

記念講演会 15:40～17:00

テーマ：『小樽におけるウェルネスタウン構想の実現について』

講師 第1部

山田 厚 氏

株式会社小樽ベイシティ開発 顧問・小樽市元副市長

内藤 雄介 氏

株式会社小樽ベイシティ開発 代表取締役社長

講師 第2部

清水 雅成 氏

社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会

ソーシャルインクルージョン推進室 室長



講師 山田 厚 氏



講師 内藤 雄介 氏



講師 清水 雅成 氏

懇談会 18:00～20:00

1. 開会挨拶

第33回北海道法人会青年の集い小樽大会

大会実行委員長 呉 政 儒



呉実行委員長 開会挨拶

2. 来賓挨拶

全国法人会総連合 青年部会連絡協議会
会長 大 貫 高 輝 様



全法連 大貫会長 来賓挨拶

3. 祝 杯

小樽税務署

署長 齊 藤 康 之 様

4. 懇 談

5. アトラクション

6. 閉会挨拶

公益社団法人小樽法人会

会 長 佐 藤 慶 一 様



齊藤署長 乾杯



小樽法人会佐藤会長 閉会挨拶







第33回北海道法人会青年の集い 小樽大会

大会宣言

歴史と共に歩む 税で築く支え合いの輪

小樽市は、物流や貿易の拠点として北海道全域を支える役割を担い、多くの人々の努力と協力によって発展を遂げてきました。北海道開拓の玄関口として栄えたこの地では、当時の小樽商人たちが自らの手で整備したインフラや建造物が市に寄付され、現在では多くの人々を魅了する歴史的遺産として受け継がれています。先人たちの「他がために」の精神は、税という制度を通じて現代に受け継がれ、今を生きる私たちの暮らしを支える仕組みとなっています。

私たちは、税が社会を支える基盤であり、現在、そして未来の社会を支える柱であることを理解しています。だからこそ、先人たちの思いを胸に税の意義や役割について理解者を育成するために、その重要性を子供たちに伝え、未来を担う世代への租税教育活動を継続的に行う必要があります。

さらには、人口減少により労働者の高齢化が加速する現代で、地域社会の活性化や将来の子供たちへの負担を軽減するために、各企業へ財政健全化のための健康経営プロジェクトの推進を促すことが必要不可欠であります。そして、持続可能な社会を実現するために、税の重要性やその思いを共有する仲間をひとりでも多く増やすことで、租税教育や健康経営プロジェクトをより多く広げてまいりましょう。

本日、ここ小樽に集い、小樽の歴史に深く刻まれた「他がために」の精神を肌で感じた私たちは、税によって築かれた支え合いの輪を北海道全域へと広げ、青年ならではの行動力を活かし、持続可能な北海道の未来を築くことを誓い、第33回北海道法人会青年の集い小樽大会の大会宣言といたします。

令和7年8月29日

第33回北海道法人会青年の集い 小樽大会

実行委員長 呉 政儒